



YU-Information

No.133 山口大学の今



Re:search

～山口大学のこの一年を見つめる～



2017
10月

発明協会・発明推進協会と 包括的連携協力協定を締結

平成27年度から文部科学省「知的財産教育関係共同利用拠点」の認定を受けている本学は、公益社団法人発明協会並びに一般社団法人発明推進協会との協力関係を築いてきました。協定締結により本学と両協会による、さらなる知財教育の普及、人材育成の推進が期待されます。



11月

山口きらめき企業の魅力発見フェア2017 (Jobフェア)を開催

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の重要な取組のひとつである、Jobフェアを本学第一体育館で開催しました。同事業は若者の地元定着や企業が求める人材育成による地方創生を目的としており、平成30年6月現在計161機関(県内の高等教育機関12、地方自治体20、民間企業等120、経済団体等9)が参画しています。当日は73社が出展、大学生の他、高校生や保護者を含む1,571名の来場がありました。



12月

防府市と包括的連携協力協定を締結

防府市教育委員会と連携し、本学はこれまで防府市における生涯学習のまちづくり、教育・文化等の分野での協働を推進してきました。防府市との協定締結により、連携・協力関係をさらに強化し、防府市の資源環境を活用したフィールドワークや学生による課題解決型インターンシップ(PBI)、プロジェクト型課題解決研究(PBL)などの好循環が期待されます。本学が県内の自治体と結ぶ包括的連携協力協定は7件目です。



防府市観光マスコットキャラクター「ふっちー」と「ヤマミイ」

2018
1月

萩市と包括的連携協力協定を締結、山口銀行・萩市 と浜崎出張所の活用に関する連携協定を締結

萩市との協定締結により、ジオパークや食文化を含めた商品開発、観光調査などの研究や学生によるフィールドワーク、課題解決型インターンシップ(PBI)などの促進が期待されます。本学が県内の自治体と結ぶ包括的連携協力協定は8件目です。また株式会社山口銀行とは、既存の包括連携協定を発展させ、萩支店浜崎出張所の建物の一部をサテライト施設として活用し、連携事業を展開していきます。



萩市マスコットキャラクター「萩にゃん」と「ヤマミイ」

3月

林芳正文部科学大臣が「山口大学・京都大学 合同シンポジウム」で基調講演

林大臣は「超スマート社会(Society5.0)の実現に向けて」と題した講演において、高度専門職業人としてのグローバル経営人材や地域の産業を担う経営人材の養成を担う大学の役割と重要性について期待を述べられました。本学の大学院技術経営研究科では、全国の技術経営系専門職大学院を先導し、コアカリキュラムの策定・改訂を行ってきました。



3
月

平成29年度山口大学学位記授与式、 大学院修了式及び卒業式を挙行

博士課程の大学院生72名、修士課程等の大学院生445名に学位記の授与、学部生1,830名に卒業証書・学位記を授与しました。



4
月

平成30年度 山口大学大学院入学式および 山口大学入学式を挙行

岡正朗学長から大学院生559名、学部生2,061名に入学が許可されました。式辞では、「皆さんの能力を最大限に引き出すには、皆さん自身の志が最も重要。さらなる高みを目指して努力してほしい。」と、激励の言葉が贈られました。



大学院共同獣医学研究科の銘板除幕式を開催

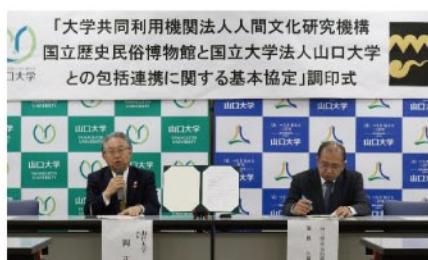
平成30年度設置の共同獣医学研究科では、世界先端的な獣医学研究を推進し、高い倫理観を備えた先導的な獣医学の教育者・研究者を養成します。また、高度な知識・技能・実務経験を備えた獣医学専門家および獣医療人を養成します。鹿児島大学との共同獣医学部に接続する共同獣医学研究科の設置により、さらに高度な国際水準の獣医学教育の推進が期待されます。

文部科学省・大学教育再生加速プログラム(AP)で「S評価」

文部科学省・大学教育再生加速プログラム(AP)の中間評価において、最高の「S評価」を受けました。本学では、多様な学生すべてに対する能力育成を最大限支援すること、教育システムを学生および社会に質保証すること、同事業の成果を積極的に情報発信し、我が国の高等教育全体の発展に貢献すること、を3つの柱に掲げ着実に成果を挙げてきました。平成29年度には、同事業の取組の中で、アクティブ・ラーニング型授業の割合が学士課程教育全体で70%を超える広がりを見せてています。



共有ワークショップ2018のグループワーク風景



国立歴史民俗博物館と包括的連携協力協定を締結

国立歴史民俗博物館と本学の山口学研究センターは、プロジェクト「古代テクノポリス山口～その解明と地域資産創出を目指して～」において相互連携による史跡周防銅錢司跡の調査・研究活動を推進してきました。同博物館の国際的なネットワークを通じた更なる研究活動の発展や、23万点にも及ぶ国宝・重要文化財や機器類などの資料を活用した共同研究や教育連携の可能性が新たに期待されます。

5
月

ワンコイン朝食でスタートアップ、 学生に好評

ゴールデンウィーク明けから、大学生活協同組合、学校福祉協会と連携して、新入生を対象に学生生活を支援する取組「ワンコイン(10・50・100)朝食事業」を行いました。2年目となる今年は、計6,268人(1日平均330人)の利用がありました。学生アンケートでは、「今後も継続して欲しい」、「量が多くすごく美味しかったです」などの意見が寄せられ、生活リズムを整え学業支援につながったことがうかがえました。定価との差額は、山口大学同窓会と本学が支援しました。



newsDigest

学部トピックス

人 文 学 部

古代テクノポリス山口ーその解明と地域資産創出ー

平成28年度から山口学研究センターの研究プロジェクトのひとつとして山口県域(長門・周防国)を舞台に展開した古代の鉱工業に関する総合調査に着手しました。平成29年度からは、山口市銅銭司・陶地域のみなさんにも参加していただき、山口市教育委員会と人文系考古学研究室が共同で史跡周防銅銭司跡の発掘調査に着手しました。調査では、大量の铸造関係資料や当時使用されていた土器、さらに銭貨が出土し、周防銅銭司の実体解明への第一歩を踏み出しました。



発掘調査現地説明会（H29.11.03）



人 文 学 部

平成29年度台湾海外調査研修

例年3月頃、人文系では参加学生を募り、台湾にある東吳大学での海外調査研修を行っています。この研修の目的は、日本と同じく、英語を母語としないアジアの学生がいかに英語を学習しているかを授業参観・参加やインタビューにより調査すること。また、台湾の社会や文化に触ることです。平成29年度は5名の学生が参加して、様々な刺激を受けて帰ってきました。

教 育 学 部

大学院教育学研究科 が「NITS カフェ賞」を受賞

NITSとは、教職員に対する総合的支援を行う全国拠点である独立行政法人教職員支援機構の略称。教育学研究科教職実践高度化専攻(教職大学院)が開催した「今こそ語り合おう！教員としてのキャリアデザイン！」と題した研修会が、教員の資質向上やキャリアデザインの意識高揚を目的とした現職の教員研修プログラムとして優れているとの高い評価を得ました。



ちゃぶ台ルームでの活動の様子

教 育 学 部

教育学部卒業生の教員正規採用合格率が全国1位

文部科学省公表の平成29年3月の教員養成課程卒業者及び教職大学院修了者の就職状況において、本学教育学部が正規採用合格率(卒業者数に対する割合)で国立44大学中全国1位となりました。本学教育学部は、山口県教育委員会や山口市教育委員会との連携協力のもと協働型教員養成・教職研修事業「ちゃぶ台プログラム」の取組を進めるなど、教員養成の充実を図っています。

経済学部

在学中の学生1名が税理士試験に合格、4名が公認会計士試験に合格

税理士試験は難関であり、大学生の合格は非常にまれなケースです。平成29年度合格者795名中、現役大学生の合格者はわずか3名でした。経済学部では平成16年に職業会計人コースを開設して以来2人目となる快挙です。また、公認会計士試験には4名が合格しました。職業会計人コース開設後、日商簿記1級の合格者は168名となり、税理士試験合格者は12名(含む卒業生)、公認会計士試験合格者は、41名(含む卒業生)となっています。



合格者による学長報告の様子



経済学部

公開講座(特別講座)「経営人材育成プログラム」の募集開始

経済産業省からの受託事業「産学連携サービス経営人材育成事業」において、本学の経済学部が開発したプログラムが、平成30年10月から公開講座としてスタートします。同講座では、県内各地域の経済的基盤を強化することを目的として、地域単位の経済リーダーを育成します。開講プログラムは4種類、地域戦略経営、ツーリズム経営、連携6次産業経営、社会的企業経営で、受講希望者はこのなかからひとつを選択して受講することになります。

理学部

20回目を迎えるサイエンスワールド

県内の科学館・博物館、研究機関と連携し、小・中・高校生や広く市民の皆さんに自然科学の魅力を楽しく分かり易く伝えることを目的として「サイエンスワールド」を毎年開催しています。平成30年度の開催で20回目を迎えるサイエンスワールドには、例年、子供から大人まで多数の方々に来場いただいており、地域の方々に広く認知されているものとスタッフ一同喜んでいます。今年の開催は、10月27日(土)です。



理学部

国際化の推進に向けてサマープログラムを実施

国際化の推進と将来の留学生の獲得につなげるため、理学部では、平成28年度からサマープログラムを実施し、体験学習や異文化交流を通じて、海外の学生に対し学部の魅力を広く発信しています。平成29年度は、台湾及び中国から14名の留学生が1週間程度滞在し、理学部の学生約20名がその間の講義・演習の補助や生活全般に係るサポートを行い、活発に交流が行われました。

医学部

AIシステム医学・医療研究教育センターを開設

同センターは、AI・機械学習とシステムバイオロジーの技術を融合し、基礎医学研究力の強化、医療技術の向上、将来の情報系医師の人材育成を目的としています。医療ビッグデータの活用には、予防医療、難治性疾患の治療法の開発など新薬・新治療技術の創出などが期待されています。また、医学部学生に対してシステム医学と医用AIの技術を学ぶ環境を提供することにより、同分野をリードする医師の育成を目指します。



センター開設の記者発表の様子 (H30.5.29 東京都内)



外観パース

医学部

医学部に新しい総合研究棟が建設されます

総合研究棟は、平成31年4月に使用開始予定です。医学部正門のすぐそばに建設され、大講義室や実習室などの教育施設のほか、産学公連携オープンラボや地域連携施設が集約されます。最先端の医療のイノベーションの創出等、教育・研究のさらなる充実とともに、地域社会に貢献するグローバルな医療人育成のための教育研究の拠点となることが期待されます。

学部

Go Global Japan成果報告会

平成24年度から28年度の文部科学省補助金事業「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」採択校による成果報告会が、5年間の取組の集大成として東京で開催されました。本学では、「東南アジア・東アジアで活躍する技術系グローバル人材の育成」をテーマに海外協定校と協力し「90の海外研修プログラム」を開発。理工系学生の特徴を考え抜いて開発した海外研修や英語教育のメソッドが注目を呼びました。



受賞作品「光の庭—Play Ground」

工学部

TOKIWAファンタジア2017で優秀アイデア賞を受賞

アクティブラーニング型授業「テクノロジ×アート チャレンジ講座」と「ものづくり創成プロジェクト」の受講生が、宇都宮市常盤公園のイルミネーション・フェスティバルで優秀アイデア賞を受賞しました。著名な建築家やチームラボ、電通のクリエーターなどによる講義とともに、学生がインタラクティブな融合現実MR空間による、新しいあそび場のカタチを創作しました。

農学部

昆虫食の試食大会を開催

昆虫食の持つ高タンパク、高栄養、低環境負荷、経済性に加えて健康に寄与する機能性に注目が集まっています。近未来の食品として大きな可能性を秘める昆虫食に興味をもってもらい、昆虫を食べるきっかけにしてもらおうと試食大会が開催されました。120名もの参加者があり、身近な昆虫を食材とした料理やお菓子の試食を楽しむ姿がみられました。



コオロギポップコーンの試食

農学部

動物細胞内の細胞小器官やタンパク質分子をリアルタイムに観察できる理科教材を開発

大学院創成科学研究科・農学専攻の内海俊彦教授らが、GFP（緑色蛍光タンパク質）を用いて培養細胞の細胞小器官やタンパク質分子の挙動をリアルタイムに可視化できる理科教材を開発しました。生細胞の中での挙動を安価な装置で観察できる点が本教材の特徴です。科学技術振興機構「サイエンス・リーダーズ・キャンプ事業」を契機に開発が進められました。今後中学校および高等学校の理科授業でひろく活用されることが期待されます。



緑色蛍光タンパク質 (GFP) 遺伝子を遺伝子導入した昆虫細胞 (BrmN4 細胞) の顕微鏡観察像



共同獣医学部

共同獣医学部の現役受験生が獣医師国家試験に全員合格

平成24年度に設置した共同獣医学部の1期生が挑んだ平成30年2月の獣医師国家試験の全員合格により、合格率100%（全国第1位）となり、無事3月に卒業を迎えました。欧洲獣医学認証の取得に向けた国際水準の獣医学教育への取組と、学生自身の努力が実を結んだものといえるでしょう。

共同獣医学部

共同獣医学部が2件のクラウドファンディングを実施

動物モデルや模型を使用することで動物福祉に配慮した実習を行うためのプロジェクト「山口大獣医学部の挑戦！動物の生体を使わない獣医師教育の実現へ」（平成30年1-3月）と、犬の乳がん発症に関わる遺伝子異常を明らかにするためのプロジェクト「イヌの乳がん発症メカニズムを解明し、治療に貢献したい！」（平成30年4-6月）を実施しました。いずれも多くの方にご支援を頂いた結果、目標額を達成することができました。今後のプロジェクトの進展にご期待ください。



国際総合科学部

FGSS留学フェア2017を開催

(Faculty of Global and Science Studies)

平成27年度に設置された国際総合科学部のカリキュラムの特色として、1年生の夏季休業中に1か月の語学研修、また2年生後期から1年間の海外留学が挙げられます。この学習プログラムにより、コミュニケーション能力や課題解決能力を鍛えます。11月、FGSS留学フェア2017を開催しました。留学から帰国した3年生及び海外からの交換留学生が、留学報告やブース別の個別説明会を行い、留学を控えた多くの後輩が興味深く質問していました。午後には10月に入学した交換留学生の歓迎会も開かれ、親睦を深めることもできました。



国際総合科学部

プロジェクト型課題解決研究(PBL)構想発表会を開催

1期生が4年生への進級を控えた2月、PBL構想発表会を開催しました。国際総合科学部の4年生は卒業論文演習の代わりにPBLを履修します。これまで身に着けてきた全ての能力をより実践的に使う力を培うために、企業や自治体と連携して実際の課題に1年間かけて取り組む演習です。同発表会では、学生たちは5~6人ずつ19のプロジェクトに分かれ、今後の方針についてプレゼンテーションを行いました。実践的な教育の総仕上げが期待されます。



2018年は明治改元から150年です！

本学でも教職員や学生が、主催行事を行ったり、県・市町と連携した事業を行って、明治150年関連事業を盛り上げています。その中から主だったものをいくつか紹介します。

在英国日本大使館において、UCL、鹿児島大学とシンポジウムを共催

幕末、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)で科学・技術を学び新しい日本創生の原動力となつた、長州ファイブと薩摩ナインティーン。6月22日「一維新150周年記念国際シンポジウム—安全・安心かつ持続可能な未来に向けての最新科学技術」を山口大学、鹿児島大学、UCL、在英國日本国大使館が共催し、世界に向けて日英の研究者が最新の研究情報を発信しました。



山口ゆめ花博

山口県との共同研究「子どもの育ちを支える公園」

山口ゆめ花博の期間中、会場には「日本一高い木のブランコ」や、「長さ100メートルほどの日本一長い竹のコースター」、「巨大な砂山」、「高さ4メートルの巨大なキツネのわらアート」など9つの遊具が設置されます。共同研究チーフの本学教育学部・川崎徳子准教授は、「地形を活かして公園全体が有機的につながっているデザイン。子どもの可能性が広がるような新しい空間づくりを試みた。」と話しています。



山口ゆめ花博

健康維持の新しい可能性が広がる「健康の庭」

本学医学部・附属病院と一般社団法人山口県造園建設業協会の共同出展による「健康の庭」。医学・医療の知識と経験から、日々の暮らしの中での健康維持、病気の発症予防と退院後の機能回復など「楽しさ」と「遊び心」を盛り込んだ、3世代が集い楽しみながら元気になる庭の提案です。



維新150年記念 新たな酒プロジェクト

薩長同盟ゆかりの地、山口市と鹿児島市のプロジェクトに本学農学部と鹿児島大学農学部が協力し、清酒「薩長同盟」、焼酎「薩摩熟徒」が商品化されました。本学は、山口大学ブランド日本酒「長州学舎」で培ってきた酒米栽培の技術支援を鹿児島で行い、両大学の学生や鹿児島の小学生が酒米の育成に携わりました。焼酎「薩摩熟徒」には、この酒米の米麹が使われており「長州学舎」との大学間コラボセットも商品化されました。



日英饗応料理が防府市で再現「維新の宴」

幕末に長州藩がイギリス海軍のキング提督らをもてなした料理が防府市内の料亭で再現されました。藩の記録や江戸時代の文献をもとに、食材の一部や調理法に現代的な工夫を加えた再現に協力したのは、本学教育学部の五島淑子教授です。教授と防府市生活改善グループによる簡単に家庭でも作れるレシピは、防府市のホームページとクックパッドで公開されています。

写真提供：ほうふ日報
協力：桑華苑





山口大学医学部附属病院 再開発整備事業

Your Health,
Our Wish

Your Health, Our Wish —あなたのために—



2019年6月 新病棟(A棟)開院予定

地域医療の安心・安全のため、大規模災害時の医療提供体制を強化するとともに、山口県の中核医療機関としてさらなる充実を目指し、平成26年度から、新病棟の建設を含む病院全体の再開発整備計画をスタートさせました。



新病棟新設工事 進捗状況

5月時点で14階（R階）までの全ての骨組み工事が完了しました。同月下旬には、建設現場内で上棟式を執り行い、完成までの工事の安全を祈願しました。神事の後には、続けて杉野病院長から挨拶があり、開院した暁には、山口県唯一の特定機能病院として、更なる県内の医療提供体制の充実に貢献していきたい旨が述べられました。



上棟式の様子

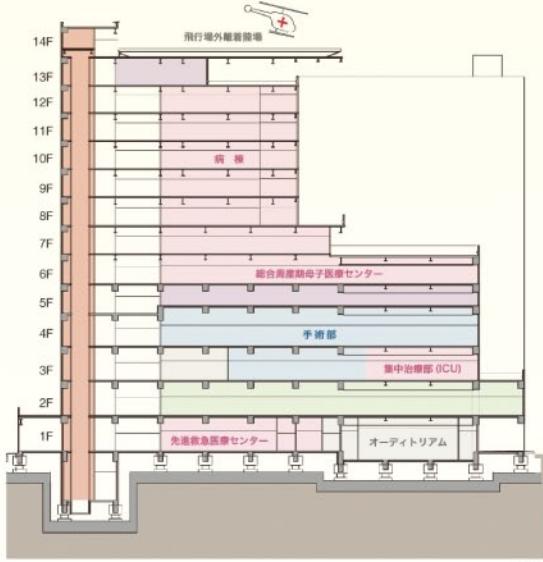


挨拶をする杉野病院長



H30.6.23 工事現場

新病棟の主な機能



屋上ヘリポート (飛行場外離着陸場)

大規模災害時の物資輸送対応用とする他、県内のドクターヘリの運用強化を図ります。



病棟

増加傾向にある呼吸器系の疾患に対応するため、呼吸器・感染症内科の病床を増床します。



総合周産期母子医療センター

県内のハイリスクな妊娠婦や、新生児の受け入れ体制強化のため、NICU(新生児集中治療室)の後方病床であるGCU(継続保育室)を増床します。



手術部

高度な外科医療を支援する、血管造影装置を組み合わせたハイブリット型手術室など高機能手術室を整備します。



集中治療部 (ICU)

集中治療部を増床し、術後の患者受入体制を強化します。



大講義室 (オーディトリアム)

オーディトリアムは、大規模災害時には臨時の治療スペースとして活用できる機能を有します。

再開発整備事業へのアクセス

山口大学 再開発

検索

<http://h-seibi.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/index.html>



地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+) やまぐち未来創生人材育成・定着促進事業

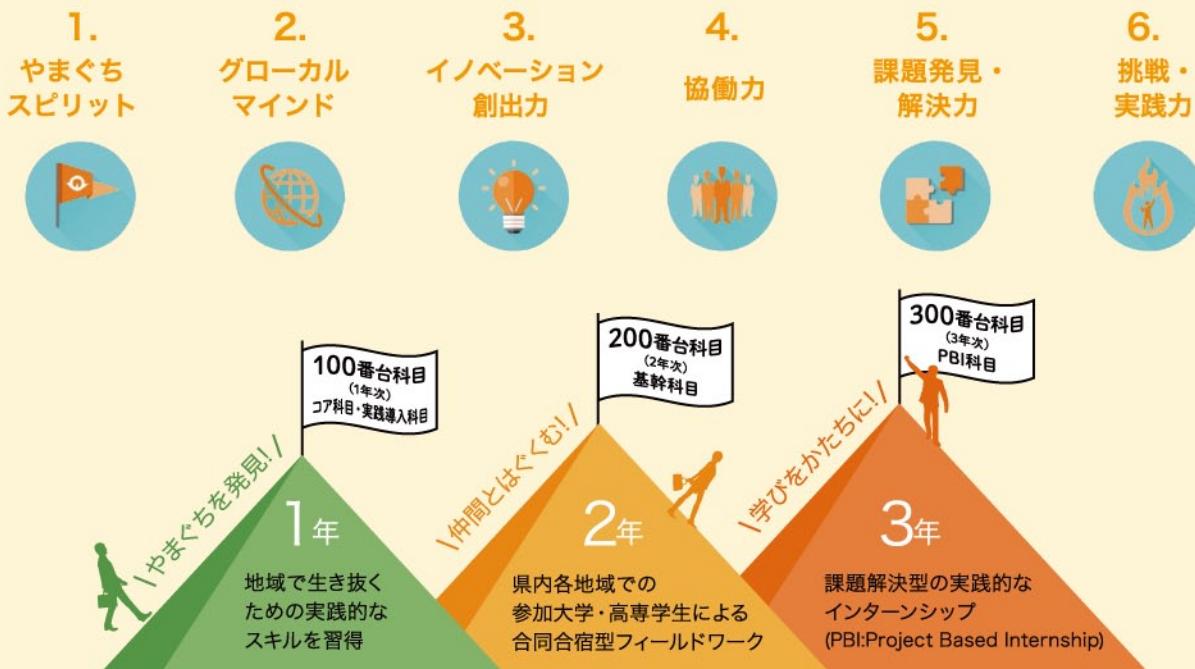
全国最大規模
161機関
が連携

“オールやまぐち”で若者の山口での活躍を応援中!!

平成27年度からスタートしたCOC+は、若者の地元定着や企業が求める人材育成等を通じ、地方の人口減少と地域経済の縮小に歯止めをかけ、地方創生につなげることを目的とした事業です。

山口大学をはじめ県内の高等教育機関12、地方自治体20、民間企業120、経済団体等9団体が参画(2018年6月現在)し、“オールやまぐち”で若者の活躍を応援しています。

COC+では、やまぐち未来創生リーダー(Yamaguchi Frontier Leader:YFL)を育成するための教育プログラムを実施し、地域が求める6つの力を育成します。



100番台科目	200番台科目	300番台科目
<p>県知事、銀行頭取、企業経営者ら各界のプロフェッショナルを招き、やまぐちの行政・経済を学びます。</p>   (村岡嗣政山口県知事による講義)	<p>合同合宿など多様な学びのフィールドで、サービス産業や地域資源の活用、起業について学びます。</p>   (地域での合同合宿の様子)	<p>地域社会が抱える課題や企業が直面する課題を自ら発見し、解決する実践的インターンシップを行います。</p>   (プレゼンテーションの様子)
<p>参加学生の声 年間売上が100億円を超える企業が山口県に80社以上もあるなんて知らなかったです。</p>	<p>参加学生の声 地域の方の話を聞き、収集した情報を基にワークショップを行い、学生目線で提案を発表しました。</p>	<p>参加学生の声 社員の方と一緒に、商品開発に携わることができました！</p>

やまぐちの魅力！やまぐちで働くメリット！

- 高い実績を誇り世界に通用する企業がたくさんあります。
- 同程度の規模の都市が分散していて、それぞれに独自の自然、文化、産業があり、将来の生活への多彩な選択が可能です。
- 地震が少なく、自然豊かで、伸び伸びした生活・子育てがしやすいのも特徴です。
- 大都市圏と比較すると、生活コスト、通勤時間いずれも約半分で、ゆとりのある生活を実感できます。

「やまぐち未来創生人材育成・定着促進事業」紹介サイトへのアクセス

YFL COC+

検索

<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/coc-plus.html>



山口大学基金

山口大学は未来へはばたくあなたを応援します。

学生が安心して勉学に打ち込めるよう経済的支援を行い、グローバルマインドを身に付け、
地域、そして世界で活躍する「未来の長州ファイブ」を育てます。



七村奨学金

(返還を要しない給付型奨学金、年間63万円、4年又は6年間)

平成28年度から
支援開始

家計の急変による
経済的困窮学生への
授業料等の一部を
支援

支援学生数：
のべ**300**名超

支援総額：
約**7000**万円

海外留学経費の 一部を支援

(渡航期間により5万円
から20万円を支援)



外国人留学生への 奨学金給付

年間54万円

大会等で優秀な成績を挙げた 課外活動、団体への支援

1団体 10万円

山口大学基金は、学生の修学支援の他、「教育・学術・文化の発展」に寄与するため、本学が行う「教育・研究」、「国際交流事業」、「地域連携活動事業」にも支援を行っています。

山口大学基金は、本学の卒業生、同窓会、企業・団体、在学生のご家族、教職員等の皆様のご寄附により成り立っています。

税法上の優遇措置等

個人からのご寄付：山口大学基金（学生の修学支援）へのご寄附は、確定申告により最大で**寄附額の約4割 + 住民税の約1割***が税額控除されます。
その他へのご寄附は、所得控除の対象になります。
※住民税は、山口大学を「寄附金税額控除対象法人」として条例で指定している地方自治体の場合

法人等からのご寄付：寄附金の全額を損金処理できます。

基金に関する
お問合せ先

山口大学基金事務局

TEL : 083-933-5622/5631 FAX : 083-933-5624
E-mail : <http://www.yamaguchi-u.ac.jp/kikin.html>



Event Schedule

【イベントスケジュール】

8/3 金 オープンキャンパス (小串キャンパス・医学部)(常盤キャンパス・工学部)

8/4 土 オープンキャンパス (吉田キャンパス・人文学部・教育学部・経済学部・理学部・農学部・共同獣医学部・国際総合科学部)

9/16 日 第46回七夕祭 (吉田キャンパス)

10/27 土 6回山口大学ホームカミングデー (吉田キャンパス)
※理学部サイエンスワールド同時開催

11/3 土 JOBFェア山口きらめき企業の魅力発見フェア2018
(維新百年記念公園)

11/3 土 4日 第74回医学祭 (小串キャンパス)

11/4 日 第69回姫山祭 (吉田キャンパス)

11/17 土 第69回常盤祭／第2回工学部ホームカミングデー (常盤キャンパス)

情報誌

「Academi-Q(アカデミック)」

平成30年4月創刊!想定読者は小学生から大人まで。学内のおもしろい研究や活動を
ライターが取材し読者の立場から分かりやすく解説します。

「Academi-Q」は学術(Academic)の不思議(Question)が、高品質(Quality)で、
すぐに(Quick)わかることを目指して付けました。



[Web版 Academi-Q]

<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/academiq.html>

YU-INFORMATION

ワイユーインフォメーション
山口大学広報誌 Vol.133

山口大学総務企画部総務課広報室

〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1
TEL:083-933-5007 FAX:083-933-5013

E-MAIL:sh011@yamaguchi-u.ac.jp
URL:<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/>

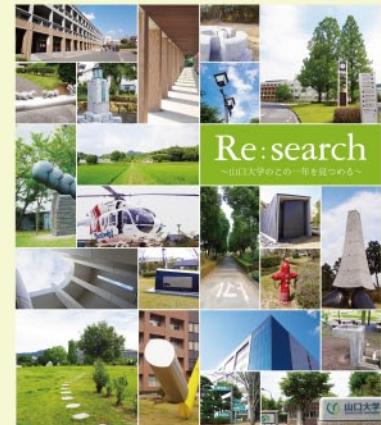
YU-PRSS
広報学生スタッフ
も活躍中!

YU-INFORMATION

No.133

山口大学広報誌

山口大学の今



Cover Story

【今回の表紙】

山口大学には、いろいろな気になるモノが点在しています。それはとても大きかったり、不思議な形をしていたり、古いものだったりします。あるいは道案内の看板だったり、道路の標示だったりします。

広いキャンパスを散策しながら探してみて欲しいと思います。

あなたが初めて訪問するのなら、SNS映えるアイコンが、あなたが卒業生なら、在学時になかった造形物をいくつも発見することでしょう。それは、きっと何かのためにあるはずです。想像したり、説明があれば読んでみてください。

少しずつ、山口大学の横顔が見えてくるかも知れません。

行き先が分からなければ、写真を示して近くの誰かに聞いてみてください。

よう、おいでました。

そして、ようお帰りなさいました。

楽しい一日になりますように。



入試情報
配信中!

